

早生温州の収穫直後の根中デンプン含有率は翌年の着花予測に活用できる

早生温州の収穫直後(10月下旬)の根中デンプン含有率は、翌年の葉花比と負の相関があり、この含有率を測定することで翌年の着花量を予測することができる。また、1月の根中デンプン含有率は収穫直後の10月に比べ高くなるが、葉花比との相関は弱い。

農業研究センター 果樹研究所病虫化学研究室 (担当者 :上村浩憲)

#### 研究のねらい

近年、県内の極早生・早生温州の生産現場において、隔年結果が見られている。そこで、早生温州「肥のあけぼの」において、根のデンプン含有率と翌年の着花量との関係について明らかにし、生産対策の一助とする。

#### 研究の成果

1. 根のデンプン含有率は、収穫直後の10月に比べ翌年1月が多く含まれる。10月の含有率は翌年の葉花比(葉/花)と負の相関が見られたが、1月の含有率には相関が見られない(表1)。
2. 収穫直後(10月下旬)の根中デンプン含有率は収量と負の相関があり、収量が多い樹では、収穫直後の根中デンプン含有率が低い(図1)。
3. 収穫直後(10月下旬)の根中デンプン含有率と翌年の葉花比との関係は、曲線的な負の相関があり、翌年の着花予測に活用できる(図2)。

#### 普及上の留意点

1. この成果は、果樹研究所ほ場内において早生温州「肥のあけぼの」(12~14年生樹)を2004~2006年に調査した結果である。
2. 根は収穫直後(10月下旬)に長さ約20cmの中根(直径約5mm)を1樹あたり2カ所採取し、洗浄・乾燥後微粉碎したものをヨウ素比色法で測定した。
3. デンプン標準物(「でんぶん溶性」)はジャガイモを原料としたものを使用した。

表1 根の採取時期別根中デンプン含有率と翌年の葉花比との関係(n=11)

採取時期	デンプン含有率(%)	葉花比との相関係数
2004年10月下旬	0.2 ~ 4.3	-0.5115**
2005年1月中旬	10.2 ~ 36.9	0.0114

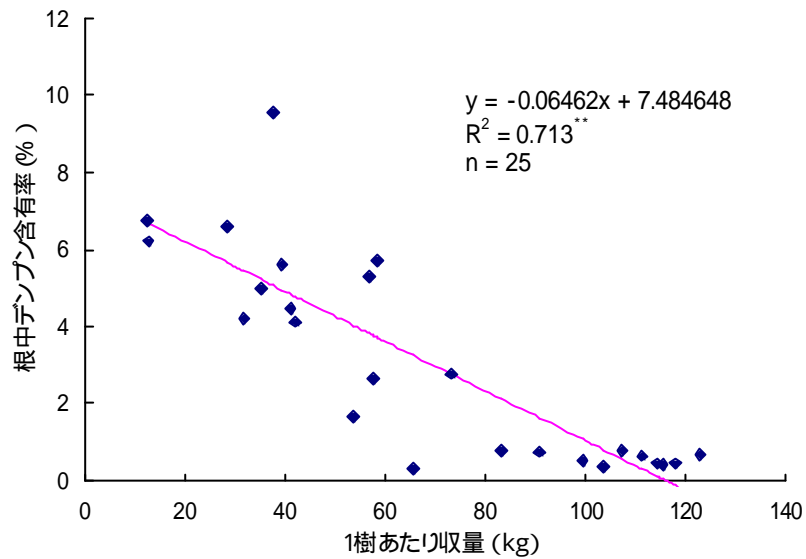


図1 収量と10月下旬の根中デンプン含有率との関係(2004 ~ 2006年)

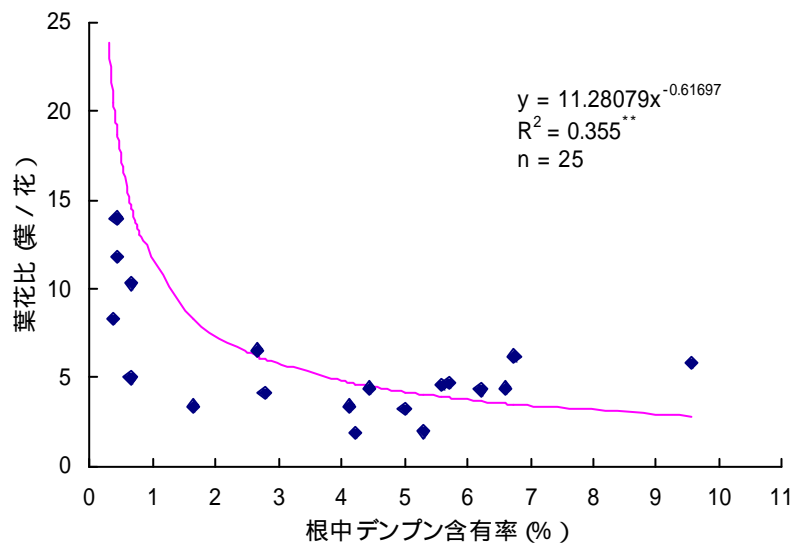


図2 10月下旬の根中デンプン含有率と翌年の葉花比(2004 ~ 2006年)

表示しなかった葉花比25以上は3年間で6点見られ、デンプン含有率はいずれも1%未満であった